

## もやい 31年度 第1回定例会 議事録

日 時 : 4月4日(木) 15:00~17:00

場 所 : 支援センター会議室

出席者 : 田中、大福、石見、添田、、植村、久保田、(欠 廣川)

### 【1】WAM 助成金関係について

- ①決算について現在計算中(旨くいつてない状況)
- ②事業報告書について作成中

### 【2】トヨタ・モビリティ活動資金助成事業について内定のメールがあった

- ・事業概略の説明をした(資料参照)

### 【3】31年度活動の重点活動について情報交換した

- ①生活困窮者の雇用機会促進(生活自立支援課 社会復帰活動に関する人材育成事業)
- ②ボランティア運転手の育成について
- ③生活支援サービス登録団体への働きかけについて
- ④各地の包括を廻って働きかけを行う
- ⑤市内の社会福祉法人を廻り、協働について働きかけを行う(法人紹介者を探す)
- ⑥福祉有償団体との情報交換(11団体)
- ⑦市議会議員と情報交換の働きかけを行う(もやいが超党派で勉強会実施する)
- ⑧各種手続きの代行について(行政書士 石見さん)
- ⑨障害者支援団体への車両の貸し出しについて

### 【4】その他

- ①中高年の引きこもり実態について
- ②定例会出席者名簿とメールリスト名簿の見直し

### <次回定例会>

日時: 平成31年4月18日(木) 15:00~17:00

場所: 市民活動支援センター 会議室

## トヨタモビリティ基金助成金 活動メモ(今後具体的に詰める事項)

### (1) 運営の組織

#### ① センターの設立の担当

- ・センター長 : (大福)
- ・副センター長 : (添田)
- ・事務局長 : (田中) (会計・広報・システム担当含む)
- ・センター会議(定例会)

メンバー: 大福、田中、添田、広川、石見、久保田、植村、他予定)

原則: 毎月第1、第3 木曜日、午後15時～17時

#### ② 運営委員会の設置とメンバーを結成する(下記メンバーは候補)

- ・会長 : 大福族生
- ・事務局長 : 田中俊光
- ・メンバー : 野浦(絹一)、依田(みつい台)、坂野(きよぴー)、浅川(ティタイム)  
森山(行政)、小峯(社協)、もやいセンター会議メンバー

### (2) 今後連携団体との意見調整機関の設置を考える(みんなと相談して決める)

#### ① 連携団体会議の設置とメンバー

- ・事務局 : (未定)
- ・連携団体メンバー : ①伊藤みどり氏 ②服部真治氏 ③島津 淳氏  
④数井 学氏 ⑤堂田レイ子氏 ⑥辻野文彦氏 ⑦山中 馨氏 ⑧藤岡一昭氏

#### ② 事業全体の意思統一

- ① 有償ボランティアと無償ボランティア
- ② 車両の管理(保有台数と駐車場など)
- ③ 運転者と同乗者の役割

### (3) 行政(高齢者福祉課)と社協(支えあい推進部)との今後について詰める

- ① プロジェクトの各種取り決め
- ② 長期計画への対応

<トヨタ助成金事業参考資料>

トヨタモビリティ基金申請予算書 (2019/04/04)

B. 科目別合計				
大科目	中科目	中科目合計	小科目	小科目合計
直接経費	旅費	1,366,000	旅費交通費	1,366,000
	人件費	9,060,000	直接人件費	4,775,000
			外部人件費	4,285,000
	一般業務費	6,317,672	車両関係費	3,540,672
			消耗品費	120,000
			ソフトウェア購入費	111,000
			通信運搬費	246,000
			印刷製本費	888,000
			保険料費	80,000
			会議費	98,000
			会費	0
			広告宣伝費	120,000
			図書費	18,000
			教育研修費	36,000
			雑費	1,060,000
			機材費	300,000
	機材運搬費	0		
	業務委託費	900,000	—	900,000
	その他	0	租税公課費	0
				<b>合計</b>
			<b>助成額</b>	

本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

## 車いすタクシー 研修義務

### 国助成業者 乗降補助実技で

政府は、車いす利用者や高齢者らが乗り降りしやすい「ユニバーサルデザイン(UD)タクシー」の利用促進に向け、車両購入の際に補助金を受給したタクシー業者を対象に、運転手にスロープの使い方などの実技研修を行うよう、今月から義務付けた。車いす利用者が乗車を拒否された事例の報告を受け、2020年の東京五輪・パラリンピックを前に対応を改善させる狙いがある。

### 乗車拒否事例受け

国土交通省は12年から、UDタクシーの基準を設け、現在、3車種を認定するとともに、タクシー業者に車両購入費の一部(上限60万円)を補助している。今月の補助金交付決定分から、運転手などへの研修の義務化が始まった。ビデオ教材を使った座学講習だけでなく、乗り降りのサポートや車いすの固



車いす用のスロープを取り付けた「ユニバーサルデザインタクシー」(今年2月、東京都文京区で)

ユニバーサルデザインタクシー 車いすのまま乗り降りできる専用スロープや乗降用の手すりなどを備えたワゴンタイプのタクシー。略称でUDタクシーと呼ぶ。車内が広い低床のデザインで、高齢者や妊産婦らも乗り降りしやすい。要介護者向けの介護タクシーとは異なり、運賃はセダン型タクシーと同額で、予約をしなくても乗車できる。

定方法などを実際の車両を使って学んでもらう。接遇が良い運転手に対しては、表彰を行う方針だ。UDタクシーをめぐるっては、障害者団体でつくるNPO法人DPP「日本会議」(東京)の昨夏の調査で、車いすでの乗車を拒否されたり、乗り降りに20分以上も時間がかかったりするなどの不適切な事例が報告された。これを受け、国土交通省は昨

な環境の整備を図る「まっぴら」に改善を通知していた。

国交省によると、UDタクシーの全国の普及台数は17年度末の時点で、5016台だった。東京都は東京五輪のある2020年をめぐり、都内だけで1万台の導入を目指している。都内の法人タクシー台数は現在約3万台とされている。

政府はこのほか、UDタクシーの普及に向け、総合的な対策を実施する方針だ。利用の需要が高い病院や駅などの管理者に対しては、UDタクシー専用乗り場の設置を要請する。特に、病院には、車いすの利用者が使いやすいよう、常設スロープの設置を推進し、乗り降りの迅速化を図るよう求める。

タクシー業者に対しては、UDタクシーの共同配車の推進も呼びかける。

## **[1]活動概要**

### **1. 活動目的**

個人所有車の利用をさげ、団体が所有する車の活用と保険を組み合わせた「安心・安全」の確保した移動・送迎支援システムを確立し、誰もが安心して外出できる支援団体を増やし、高齢者の健康維持・活性化の促進を図る

### **2. 実施項目(活動計画概要)**

・当団体が車両を複数台所有し、市内各地で活動している団体からの協力要請に応じて車両を貸与し、移動・送迎サービスを実施する。基本的にはその団体の運転者が送迎を行う。

#### **[1] 移動・送迎支援センターによる管理・運営**

定例会を実施し事業の進捗状況の確認や新しい課題への対応

#### **[2] 自前車両による計画的移動・送迎支援**

地域で活動する団体へ送迎用車両の貸与や運行の支援等のコーディネート作業

#### **[3] 運転者講習等による人材育成**

移動・送迎のための法律など、専門知識習、安全運転のための国交省認定講習の実施及び非常時の対応

#### **[4] 運営委員会によるネットワーク化の推進**

関係機関、各地で活動する団体のスタッフによるネットワーク化の推進。

#### **<将来の構想>**

将来は各団体が自前の車両を保有し活動を継続する。それらの団体をネットワークで繋ぎ、センター事業を整備する

### **3. 想定される成果・成果物**

#### **<成果>**

- ・地域での交流による新しい仲間が増え、生きがい活動が促進され健康寿命の延びることを期待される
- ・それぞれの地域で移動が確保され、地域の活性化が期待される
- ・有償ボランティアを育成することによる雇用促進

#### **<成果物>**

- ・移動・送迎支援システムの確立
- ・運転者講習テキストなどの人材育成教本
- ・官民連携・地域連携のネットワークの構築

### [3] 活動計画詳細

#### 1、活動の目的

個人所有車の利用をさげ、団体が所有する車の活用と保険を組み合わせた「安心・安全」の確保した移動・送迎支援システムを確立し、誰もが安心して外出できる支援団体を増やし、高齢者の健康維持・活性化の促進を図る

#### 2、実施項目と主要な概算金額

##### [1] 移動支援センターによる運営・管理

- ・移動支援センターを設置し、事業全体の進捗状況を管理

##### [2] 自前の車両による計画的な移動・送迎支援

- ・送迎車両の運行（車両リース代

##### [3] 運転者講習等による人事育成

- ・国交省認定運転者講習の実施
- ・勉強会による課題抽出と対応
- ・シンポジウムの開催

##### [4] 運営委員会によるネットワーク化の推進

- ・運営委員会によるネットワーク化の推進
- ・車両予約・運行システムの構築

#### 3、活動で取り組む移動の課題 ※できるだけ数値で示してください

- ・今後急速に高齢者が増えることが想定される。

高齢化率 平成 30 年度 26.0% ⇒ 平成 37 年度 27.6%

- ・外出には公共交通が不便で、かつバス停まで坂道が多く、停留場までの移動が困難

- ・移動・送迎支援を行う活動団体、担い手が少ない

登録活動団体（平成 30 年度末 20 団体 ⇒ 平成 31 年度末 30 団体（八王子福祉部計画）

- ・移動・送迎支援に関する公的支援体制が少ない

八王子市社協、八王子共生社会推進会議が連携し取り組み中

#### 4、移動の課題の解決に向けた 具体的な活動内容

##### [1] センターによる運営・管理

- ・定期的な定例会を開催し、事業進捗状況のチェックと課題解決（運営委員会含む）（合計 24 回）、
- ・連携団体や行政・社協との情報交換及び課題の共有
- ・移動・送迎支援相談窓口設置（相談窓口運営 120 日）

##### [2] 自前の車両による計画的な移動・送迎支援

- ・送迎車両の運用（出動 60 回）
- ・運転者・同行者の手配及び移動・送迎支援活動のコーディネート
- ・移動・送迎支援の PR 活動

[3] 運転者講習等による人材育成

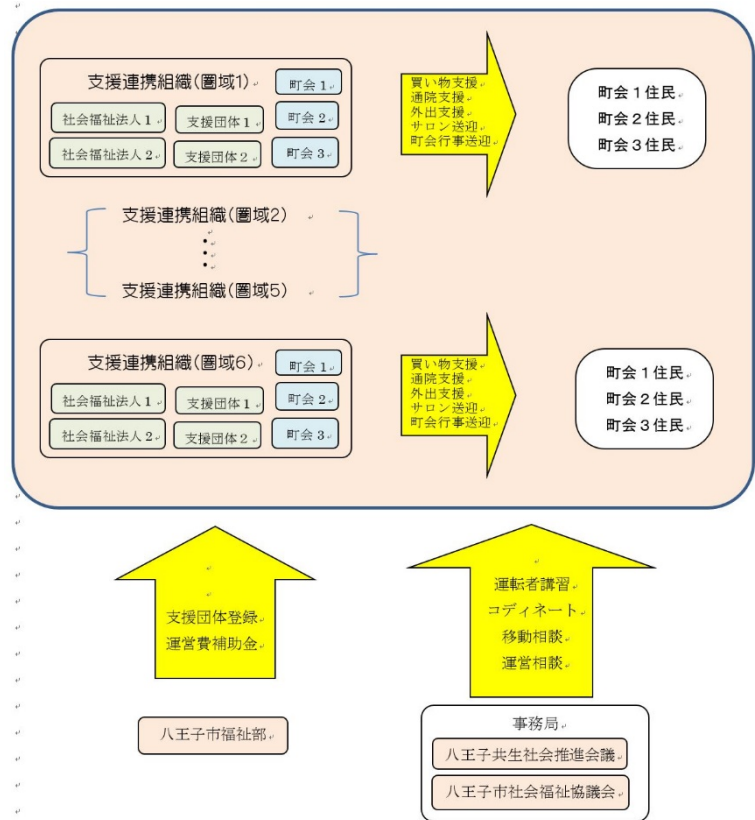
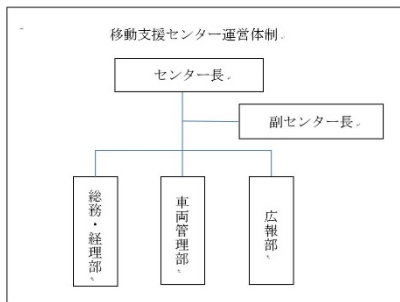
- ・ ボランティア運転者育成講習会の実施（10回）
- ・ 課題解決のための勉強会の実施（2回）
- ・ 移動・送迎支援活動に関するシンポジウムの開催

[4] 運営委員会によるネットワーク化の推進

- ・ 運営委員会による行政・活動団体によるネットワーク化の推進（隔月に6回）
- ・ 車両の予約・運行システムの開発・運用

6、連携団体

- ② 全国移動サービスネットワーク 事務局長伊藤みどり氏
- ③ 医療経済研究機構研究部研究員 服部真治氏
- ④ 桜美林大学社会福祉教授 島津 淳氏
- ⑤ 数井クリニック院長 数井 学氏
- ⑥ 特定非営利活動法人ケアセンター八王子理事長 堂田レイ子氏
- ⑦ (行政)八王子市福祉部高齢者福祉課主査 辻野文彦氏
- ⑧ 特定非営利活動法人八王子市民活動協議会事務局長 山中 馨氏
- ⑨ 一般社団法人八王子自治研究センター理事長 藤岡一昭氏



内閣府「中高年のひきこもり」（調査時期 平成30年12月7日～12月24日）

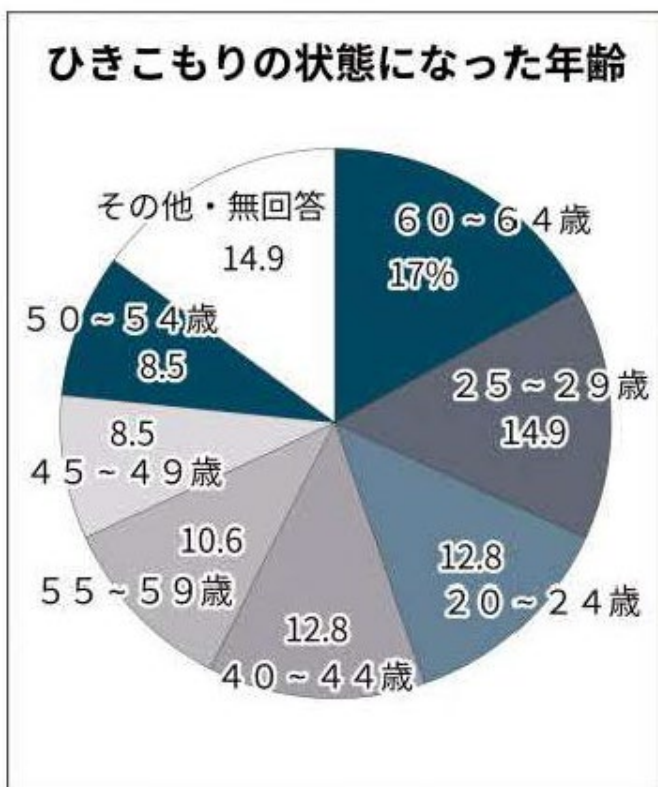
内閣府が2015年度に実施した調査で、15～39歳の「若年ひきこもり」は54・1万人と推計された。今回、40～64歳の「中高年のひきこもり」について国レベルで初の調査を実施。調査方法の一部変更があったため単純比較はできないが、その結果に基づく推計数は、若年層を上回った。

今回の推計は、ひきこもる中高年の子と高齢の親が孤立する「**8050（はちまるごーまる）問題**」が、特殊な例ではないことを示すものといえる。また、「就職氷河期世代」（おおむね現在の30代後半～40代後半）の多くが40代に達したため、中高年のひきこもりが増えているとの指摘もある。

調査時期や手法の違いから「若年」と「中高年」の推計を単純合計はできないとしつつも、北風参事官はひきこもり総数が「100万人以上」になるとの見方を示した。

今回の調査は18年12月、無作為抽出した40～64歳 **5千人を対象に実施（有効回答65%）**。その結果、ひきこもっていた人の年齢層は40代が38・3%、50代が36・2%、60～64歳が25・5%だった。期間は5年以上の長期に及ぶ人が半数を超え、20年以上の人が2割弱を占めた。性別は男性76・6%、女性23・4%で、男性が多い傾向があった。ひきこもり状態にある人の比率は全体の1・45%。この比率から全体状況を推計した。

内閣府はこれまで2回、15～39歳のひきこもり調査を実施してきた。しかし、ひきこもりの長期化傾向が明らかとなり、40代以上を除いた調査では全体像がわからない、という指摘が当事者団体などから出ていた。それを踏まえ、初めて中高年の調査に踏み切った。（編集委員・清川卓史、田渕紫織）



### ひきこもりになったきっかけ (上位5つ、複数回答)

退職した	36.2%
人間関係がうまくいかなかった	21.3%
病気	21.3%
職場になじめなかった	19.1%
就職活動がうまくいかなかった	6.4%

(注)40～64歳、内閣府調べ。

- #### 広義のひきこもり群
- ①ひきこもりの状態になったきっかけ
  - ②昼夜逆転の生活をしている
  - ③ふだん自宅をよくしていること（テレビ、ネット）
  - ④通信手段でふだん利用しているもの（電話、メー



(1) 広義のひきこもり群の出現率及び推計数

今回の調査結果における広義のひきこもり群の出現率は1.45%であり、推計数は61.3万人である。

※ 調査対象である満40歳から満64歳までの人口は、4,235万人

	該当人数(人)	有効回数数に占める割合(%)	全国の推計数(注1) (万人)
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	19	0.58	24.8
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	21	0.65	27.4
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	7	0.22	9.1
計	47	1.45	61.3

性別 (Q1)

広義のひきこもり群では、男性が4分の3以上を占める。

